

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720060

研究課題名（和文）

『映画史』以降の地平からのジャン＝リュック・ゴダール作品の再解釈の試み

研究課題名（英文）

A Reinterpretation of Jean-Luc Godard's Work From the Perspective After *Histoire(s) du cinéma*

研究代表者

堀 潤之 (HORI JUNJI)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：80388412

研究成果の概要（和文）：

本研究は、ゴダールが『映画史』以降、第二次世界大戦期におけるレジスタンスやホロコーストや、戦後のパレスチナ問題といった 20 世紀ヨーロッパ史の危機的な瞬間に大いに関心を寄せ、それらに特異なアプローチで迫っていることを、一方では『映画史』以降の作品、とりわけ『ゴダール・ソシアリズム』の精読・註解、他方では特に強制収容所のモチーフに焦点を当てながら旧作を再解釈することによって跡づけたものである。

研究成果の概要（英文）：

Since his magnum opus *Histoire(s) du cinéma*, Jean-Luc Godard is more and more interested in some of the critical moments of 20th century European history, such as the Resistance, the Holocaust, and the Israeli–Palestinian conflict. This study analyzes his idiosyncratic ways of approaching these histories through the close reading of the films following *Histoire(s) du cinéma*—particularly his latest film entitled *Film socialisme*—as well as through the reinterpretation of some of his older films in terms of the subject of the concentration camps.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：映画研究 ゴダール 表象文化 歴史と記憶

1. 研究開始当初の背景

映画作家ジャン＝リュック・ゴダール(1930-)が当時すでに半世紀に及ぼうとしていたみずからのキャリアを集大成したヴィデオ作品『映画史』*Histoire(s) du cinéma*

(1988-98)では、それ以前の時期の作品においては必ずしも明瞭でなかった「歴史」や「記憶」のテーマがはっきりと前面に出てきている。しかも、彼が関心を寄せる歴史的な出来事は、第二次世界大戦期におけるレジスタンスやホロコースト、そして戦後のパレスチナ

